

## 町田 久 プロフィール



1975年に東京で治療院を開業。以来35年間、独自に開発したビタミンマッサージで施術を行っている。ビタミンマッサージはビタミンEを主成分としたオイルを用いてマッサージを行う方法で、皮膚からの吸収に優れている。

ビタミンEの特性—特にホルモン代謝、抗酸化作用を活かし、美容、治療の両面に幅広く適応する。

25年前から3年程定期的にフランスボルドーでアロマセラピーを研究、それ以降ビタミンマッサージオイルに精油を含有させ、アロマセラピーの治療を行っている。

5年前から顔鍼の施術を行い、美容鍼灸の分野を広げている。顔鍼は中国福建中医薬大学をはじめ、韓国、台湾でセミナーを続けている。

また、分子栄養学をベースにしてサプリメントの商品開発、普及、教育を行っている。

中国福建中医薬大学との交流は25年前から始め、以後中国で、あるいは日本で学会を主催し続けている。2011年4月にも中国で交流学会を開催予定。名誉教授として毎年集中講義を続けている。他に黒竜江省中医薬大学客員教授を務める。

2009年に中国全国高科技健産芳香保健専門委員会(Aromatic Healthcare Professional of Committee)の委員に任命され、2010年には委員会の駐日本工作中心代表になる。中国は委員会が精油の基準、教育の基準を作ろうとしている。2年後には北京郊外にアロマテマパークを作る計画がある。

また来年北海道川湯温泉で中国アロマ委員会を招待し、日中アロマフォーラムを開く予定。

韓国では京畿大学代替医学大学院客員教授を務めている。

台湾では漢方統合医療センター理事を務め、中医統合医療学会設立に動いている。

国内では大阪大学院医学部、宮崎県立看護大学、亀田総合病院、長野飯山市赤十字病院、奄美瀬戸内病院などでセミナーを続けている。日本統合セラピスト教育協会(J-EAT)、環太平洋アロマ代替療法協会の会長として、多くの講演会、セミナーを開催している。

これらの講演会、セミナーのテーマは統合医療で、現代医療に欠けている患者への思いやり、結びつきをタッチング、鍼治療を通じて免疫、睡眠、鎮痛、抗炎症などQOLを上げることを目指す。

また都心型医療施設に対して滞在型医療施設を作ることを提言している。

がんを例にとると、がんの95%は生活習慣であると言われています。環境を変えることで生活習慣を見直すきっかけになるような施設が今後必要であり、統合医療センターは森林、海、食べ物、温泉、セラピーなどを含めた滞在型医療施設にあるべきであると提案している。

- ◎表参道セラ治療院院長
- ◎中国福建中医薬大学名誉教授
- ◎日本統合セラピスト教育協会(J-EAT)会長
- ◎中国全国高科技健産芳香保健専門委員会駐日本工作中心代表
- ◎台湾統合医療センター理事